

# 平成25年度第11回鹿島区地域協議会 会議録

## <地域協議会の日時・場所>

- 1 日時 平成26年1月22日(水)  
開始 13:30  
終了 17:00
- 2 場所 鹿島区役所 大会議室

### 1. 開会

#### ■事務局

地域協議会成立要件の確認

委員数14名

【出席委員名】12名

澤田一夫、五賀和雄、松野豊喜、鈴木直門、和泉ひで子、西 道典  
荒 邦夫、郡 俊彦、早川孝雄、前田典郎、立谷ちず子、大塚悦子

【欠席委員名】2名

折笠寛昭、西 文子

委員の過半数が出席していることにより、本会議が成立していることを確認。

### 2. 会長あいさつ

### 3. 区役所長あいさつ

除染…小池行政区の仮置き場が決定し、除染作業に入る。

小山田行政区では、現在、仮置き場の候補地を検討中で決定次第、具体的な除染のスケジュールを組む。

防災集団移転…12月から一部分譲開始しており、鹿島区においては、比較的早い段階で分譲できる見通し。

災害公営住宅…西川原第一地区に関して、年度内に分譲開始できるよう鋭意進めている。

生活環境…寺内、上寺内地区について住宅密集する傾向にあり、下水関係の能力が厳しく、市では国に要望していた。西部集排に関して、処理場の増設という形で解決をしたということで、地元への説明は済んでいる。

### 4. 議事録署名人の指名

—澤田会長が、議事録署名人に立谷ちず子委員と大塚悦子委員を指名する。—

#### ■地域振興課長

今回、(仮称)鹿島児童センターについては、諮問事項から取り下げになっている。財源内訳のなかで、もっと有利な財源があるのではないかとということで検討している。担当課としては、当初予定している 28 年 4 月オープンには間に合わせるということであった。

－ ここから、澤田会長を座長として進行 －

## 5. 議事

### (1) 報告事項

①南相馬市立総合病院脳卒中センター建設事業について

#### ■総合病院事務課

－資料により説明－

#### ○早川委員

①南相馬市で医師を目指している生徒数は。

②患者の医療負担等軽減を考えた場合に、南相馬市立総合病院として後発医薬品をどの程度取り入れているか。

#### ■総合病院事務課

①原町高校に確認したところ、現在、福島医大、東北大(医)に進学されている方は、6年生まで含め1名～2名程度であり、震災以降、医科大学に進学された生徒はいない状況。

臨床研修医制度として、他の地方で免許をとった医師を研修の形で医師を確保したり、市で奨学金制度を設けている。中高生の段階で、奨学金で進学できる状況を市で整えていることを説明していきながら医師の確保に努めてまいりたい。

②後発医薬品いわゆる「ジェネリック医薬品」について、総合病院では院外処方でも外部の民間の薬局で処方しており、外来患者様から希望があればジェネリック医薬品に変更させていただいている。

ただし、入院患者様の早期の治療等では、どうしても医師の治療方針等もあって、医師の采配で医薬品は使わせていただいているが、今後そういった相談があれば、コーディネーター、ケースワーカー、医療福祉関係の相談の担当事務員がいるので、相談を受ける中で対応させていただきたいと考える。

#### ○前田委員

①建設費およびスケジュールは、東京オリンピック開催に伴う資材の高騰、人材不足等も考慮されているのか。

②ヘリポートについて、オスプレイといった軍用も大丈夫なのかどうか。

#### ■総合病院事務課

①当然、オリンピックも物価高騰等、様々なことに関わってくると考えられ、そういう要因を含め、工期、建設費等についても予測をし計上している。

②このヘリポートは、救急患者を運ぶヘリよりも重い防災ヘリにも耐えられるヘリポートだが、今おっしゃられるようなものはちょっと難しいと思われる。

## ○荒委員

医師、看護師の確保は重要である。総合病院の看護師の対応が非常に悪い。勉強不足。ベテランの医師の確保をお願いしたい。

### ■総合病院事務課

現在、総合病院には 21 名の医師がおり、震災時より増えている。震災の支援により増えている状況もある。

脳卒中においては、他の地域からの優秀な医師を確保すべくあたっているところであり、2名は来ていただける見込みである。また、県立医大にもお願いをし、質の高い医師を確保したいと考えている。

看護師の対応については、病院の中で訓練していかなければならないと考えている。看護師長がしっかり指導できる環境づくりをしていきたいと思う。お時間をいただきながら改善していくのでご理解願いたい。

相馬看護学校は相馬郡内の市町村でお金を出して運営しているところで、毎年 40 名の方が卒業する。他にも関東圏からも応募いただいて、中途採用という形もとっている。県内外に PR をし、できるだけ多く入っていただけるよう努めていきたい。

## ○前田委員

①病院スタッフの定年は。

②再雇用について。

③給与について、鹿島厚生病院、小野田病院、渡辺病院と比較してどうか。

### ■総合病院事務課

①医師については 65 歳、看護師については市の職員と同じ 60 歳、という定年制となっている。

②市では再任用制度があり、退職された方が延長してお勤めする制度を持っている。定年後でも勤められる。

③総合病院の場合、基本的に自治体病院で公務員である。民間の病院の場合は、詳しくは分からないが給与体系が異なるようである。

## ○西(道)委員

看護師確保策のうち、

① 3. 夜間保育を行う保育所の確保

② 4. 看護師の福利厚生環境の整備 についてどのように考えているか。

③看護師も医師も魅力がなければ来ない。給料を上げるといった抜本的なことを考えていただきたい。

### ■総合病院事務課

①現在、原町区で民間保育所に受け入れを依頼しており、夜間保育の委託先は決まっているが、現在は希望者がいない。今後は看護師に夜間保育を説明し、また外に向けて発信しながら看護師募集の策にもつなげていきたい。今後、脳卒中センター建設後には院内で、保育施設建設の計画も進めてまいりたいと考えている。

②臨床心理士に来ていただき、メンタルヘルスの相談、患者様に接するので予防接種を病院の費用で負担するなど、院内の福利厚生に努めてまいりたい。また今回の設計では、当直業務のために看護師専用の鍵がかけられる仮眠室を設けた。今後もいろいろな策を講じて福利厚生を高めていきたいと考えている。

③今後、そういうことについても考えていきたい。魅力ある病院づくりを進めて、来ていただけるように努めていきたい。

#### ○西(道)委員

若い人、子どもたちに帰ってきてほしいので、産婦人科、小児科をぜひお願いしたい。リハビリ科もプール等と提携して、地域と病院の連帯も考えていただければ帰ってきてやすいのではないかな。

#### ■総合病院事務課

産科、小児科の先生は少なく、現在、福島医大等にもお願いしているが派遣していただけない。小児科についても入院はできない状況で、医師を公立相馬総合病院から派遣していただいている状況。医師の複数体制を取れるように努めてまいりたい。

また現在、リハビリには20人近い職員で行っているが365日できる体制を取ろうと考えている。土日休むとどうしても戻ってしまうので、職員を増員しながら、2月から試行的に進めてまいりたい。

#### ○荒委員

- ①現在、脳神経外科の医師は何名いるか。
- ②屋上ヘリポートにこれほどかかるのか。
- ③購入する医療機器について。

#### ■総合病院事務課

①脳外科は、現在2名体制で行っている。今年の4月からは、もう1名増員を予定しており3名体制で診療を行っていく予定。

②ヘリポートの工事費に2億円以上かかる。専門の方に、見積もりをとった中での数字である。今回の場合、エレベーターで真っすぐヘリポートまで上がれるような構造にしているため、構造上、割高になっている。

中核病院として充実されれば、この病院に運んでくるという利活用も見込まれる。

③医療機器については、MRI、CT、血管造影の撮影機器の三つを新しく購入予定。MRIは現在のものより相当数倍以上の解像度があり、CTについても現在のものより時間が短く、高解度のもをかう予定であり、血管造影についても同様である。

対応する技師は現在5名の放射線技師がいる。来年の4月から、撮った画像を診断する専門の先生に来ていただけることになっている。

#### ○澤田会長

①鹿島区は原発から30km圏外ということもあり、人口の増加が見込まれる。自主的に開院したいという医師への支援策等の考えはあるか。

②県外など広域のヘリコプターの連携体制は、福島県でどうなっているか。

## ■総合病院事務課

①健康づくり課の管轄であり、開業医への支援策について要望があると担当課へ伝えたいと思う。

②ヘリコプターの広域利用について現在、山形県も福島県と協定を結んでおり、融通し合うことを協定の中で取り決めされている。

## ○澤田会長

「総合医療」という見地から縦割り行政ではなく、横の連携をとりながら対応していただきたい。

## 報告事項

②南相馬市地域防災計画（津波災害対策含む）の概要について

## ■危機管理課

－資料により説明－

## ○荒委員

①「避難誘導體制の強化」において、学校等の避難体制を整備するうえで学校と保護者、行政による避難訓練が必要である。様々な想定をし、保護者の待機のしかたを考えなければならない。

②避難時のガソリン、灯油の調達をしっかりとお願いしたい。

③道路案内を行政側で立てるよう、危険な場所にはいち早く表示を立てるなど、すばやい対応をお願いしたい。

## ■危機管理課

①保護者の方の迎えなど、基準等を具体的に学校と相談しながら定めていく。

②ガソリン、灯油等については原子力災害同様、市内の事業所と事前協議し、震災が起きた場合にも給油を継続していただくよう取り決めをしていきたいと考えている。

③道路標識について、避難時の見直しを現在計画している。避難場所が決まれば、そこに向かう避難路を指定しなければならない。どういった標識が必要なのか、関係課と協議しながら計画していきたい。

また、事故があった場合に危険をお知らせすることも必要で、早急対応について地元の行政区長と相談をしながら進めていきたい。

## ○西(道)委員

学校との取り決めは一括で行うのか、学校ごとに取り決めが異なるのか。

## ■危機管理課

震災後、各学校で避難方法を見直している。基本的には、各学校と相談しながら個別にルールを作る方針である。

## ○郡委員

震災時に、職員同士が新しい情報を共有して住民に伝える体制が必要だった。

携帯電話も通じない、防災無線も流れない状況での職員同士の緊急連絡体制、情報共

有のための手段を検討しておく必要がある。

#### ■危機管理課

携帯電話、防災無線が主となるが、他に車載無線機を関係課に配備し震災対応している。また、防災メールを、職員バージョンにカスタマイズするといった仕組みもある。

どの連絡方法が使えなくなるのか災害によって異なってくるので、選択肢を多く作っておくことが対策として必要と考えている。具体的には衛星携帯電話の利用を検討しており、国、県とはつながっているが場所によって通じない場合もある。

職員が主体的に情報を聞き取って市民の方に伝えるよう、周知徹底していくことで対応したいと考えている。

#### ○立谷委員

市として災害時に、リーダーシップがとれる人間は何人いるか。震災は明日来るかもしれない。明日起きるかもしれない震災にどのような考えなのか。

昔から地元に住む人がいう避難場所が存在する。それを調べて、すぐにでも津波が来た場合に避難する場所を示さなければならないと思う。

#### ■危機管理課

まさに命を守ることを前提に計画の見直しをしている。今日にでも起きる災害に対しては、現在ある防災計画に基づいて、市職員全体が動ける体制で取り組んでいる。

また、具体的な避難先については、津波が到達することがない場所に仮に定め、昨年度末に暫定版の津波ハザードマップを示させていただいた。

県のシミュレーション結果を待っていたのでは遅れてしまうので、昨年度末に作ったものを基に沿岸部の行政区に説明会を行いながら避難所を設定し、作成したマップを26年の4月から皆さんの手元に届くように配付していきたいと考えている。

リーダーシップがとれる職員については、部単位で責任を持った職員が対応させていただくことで考えている。

#### ○前田委員

①自治体間の相互援助協力について、東京都杉並区のほかにどういった所と締結しているか。

②民間事業者はどういった所と締結しているか。

#### ■危機管理課

①震災後、新潟県小千谷市、北海道名寄市、愛知県知多市と協定を結んでいる。

②民間事業者ではフレスコキクチ、カインズホーム、イオンスーパーセンターと締結している。足りない部分を引き続き民間事業者とやりとりをし、協定を締結していく。

#### ○西(道)委員

①消防団の部長、班長は、消防の無線を傍受できるものを持っているようだ。例えば、市役所の中の話が公開で聞ければ状況がよく分かるので、そういった無線は必要かと思う。アマチュア無線も含めて、多くの市民が聞ける方法を考えてほしい。

②寺内地区にたくさんの方々が家を建てている。隣組に入らない方々がいるため、今、

地域崩壊している。防災を考えていくうえで、地域に帰属してくれないかと行政のほうで声をかけることはできないか。

#### ■危機管理課

①情報伝達手段について、アマチュア無線、警察無線、消防団無線等いろいろな手段で伝えるよう考えている。

②震災前から住民登録の際には隣組加入促進を行っているが、現在、避難者など特別な事情もある。行政区長も負担が大きいので、防災という視点で、地域まとまって避難する場合に、隣組に入っていたかかないと避難の遅れにもつながるので、寺内の行政区長とも自主防災組織の見直しの中で相談させていただきたい。

#### ○五賀委員

3区に1カ所ずつ、まとまった防災備蓄倉庫が必要ではないかと思うが、具体的な方向性があるのかどうか。鹿島分署建替えと合わせ、備蓄倉庫も計画を立てたら効率的ではないか。

#### ■危機管理課

これまで南相馬市には備蓄倉庫はなかったので、今後、整備をする方向で進めているところである。

現在、南相馬消防署の建替えで「消防防災センター」の建設を進めているところで、鹿島分署の建替えの要望もあがっている。備蓄倉庫と一体となった整備については、その建設計画の中で検討してまいりたい。

#### (2) 諮問事項

①市道路線に関することについて

#### ■地域振興課長

公の施設の設置の管理運営に関する事項として、市道認定の諮問事項があるので会長へ区役所長より諮問書を渡す。

#### ■土木課・都市計画課・建築住宅課

—資料により説明—

#### ○前田委員

災害公営住宅の入居決定の状況についてどうか。

#### ■建築住宅課

現在の申し込み状況について、西町地区および西川原第一の戸建ては全て埋まっている。西川原第二は、32戸に対し現在、決定しているのが22世帯で10世帯分をこれから募集していく。2月1日号の広報でお知らせし、申し込みを開始していきたい。

抽選にもれた方については、抽せん会の中で空いている団地を紹介し、全員災害公営住宅が決まっている。

#### ○郡委員

鹿島区の住宅を希望しても、よそに行ってくださいということがあってはならないと

この協議会で議論されてきたがそういったケースはないか。

■区役所長

現在、そのようなケースはない。

○澤田会長

答申のまとめに入りたいと思う。

○五賀委員

防災集団移転との関連による 17 路線の新規認定と 1 路線の変更認定および災害公営住宅との関連による 2 路線の新規認定について、この諮問は妥当であると思う。

○澤田会長

原案どおりの答申としたい。

(3) 協議事項①鹿島区の地域ビジョンの策定について

■事務局

前回の会議を踏まえ、修正した部分は次のとおり。

「活力あふれるコミュニティのまち」

- ・重点プロジェクト

[中長期]として挙げられている「仮設住宅用地の跡地利用」を短期的なものにも対応する必要があるということで、[短期]にも挙げている。

・「世代間交流施設をまちなかにデマンド交通システムとセットで」について、時間的な部分もあり「世代間交流施設を活用した交流事業の展開」と、デマンドタクシーを「街なか行き来する交通体系の整備」に分け中長期に移した。

「地域資源を生かす産業と交流のまち」

- ・重点プロジェクト

「一本松を活かした商品と観光コースの開発」を追加。

「地域に学び育つまち」

- ・前回の会議の中で「小学校の学区再編」は、時期尚早ということで削除。

「健やかに安心して暮らせるまち」

- ・（保健・医療・高齢者・障害者福祉・子育て・次世代教育）から（次世代教育）を削除。

「地域に学び育つまち」

- ・（教育・文化）に、（スポーツ）を追加。
- ・「スポーツを通して幅広く人が交流できる体育施設等の整備」の中で、短期の小項目としてパークゴルフ、シーサイドウォーキングコース、中長期に総合グラウンドの整備を挙げていたが、全て大きい括りで表記した。

記載内容等の確認をいただきたい。

○郡委員

鹿島区地域の現状（と課題）の冒頭に、「震災からの再生・復興」という内容のリー



下文を加えたい。

介護福祉の部分で、介護予防のための施策も急務。

#### ■事務局

真野小の跡地利活用の部分について、2月に真野地区との意見交換を行い、そこで市の方針を示して皆さんからご意見を聞き、もし修正があれば次回の地域協議会に修正をした内容で決定していきたいので、真野小の部分は保留である。地域の意見交換によって若干変更する可能性はある。

#### ○五賀委員

仮設住宅用地の跡地利用の中にある「鹿島分署、防災備蓄倉庫」と合わせ、「安全で災害に強いまち」の重点プロジェクトにある「鹿島分署の改築」に、「防災備蓄倉庫の併設」と加えてはどうか。

#### ○郡委員

世代間交流ができる場所づくり、私は施設の整備が必要だと思う。

また、震災を記憶する公園の設置、これを「一本松を活かした商品と観光コースの開発」とセットで表現し、事業としても関連づけた方が良いのではないかと。

やはりデマンド交通とセットで世代間交流施設を設置して、ひとり暮らし、ふたり暮らしの高齢者を孤立させないように、社会参加を促し、健康増進をして介護予防をすることによって、長生きし医療介護にお金がかからない、そういうことにつなげていくことから「世代間交流施設の設置と交流事業の展開」という表現にしていきたい。

デマンド交通についても、仮設住宅の住民も多くいる現状を踏まえ、小高区のノウハウなどを生かしながら挙げていくのが良いのではないかと。

「地域資源を活かす産業と交流のまち」の⑤観光の振興に、「震災を記憶する公園の設置」を7)として新たに追加するか、6)一本松を活かした商品と観光コースの開発に付け加えるのが良いと思う。

#### ■地域振興課長

具体的な事業の組み立てについての議論はこれからであるが、単発で事業を載せているからといって融合させないわけではなく、個別の協議をする際に融合させて事業を展開していく意見が出てくるという想定はしている。

#### ○五賀委員

ビジョンを最終的にまとめるのは来月か。

#### ■事務局

今後のスケジュールは、2月の中旬に真野地区との意見交換を経た後に、2月末に地域協議会を開催して、そこで最終的な確認をいただいて、3月議会が始まる前に市長に地域ビジョン提出と考えている。

#### ○五賀委員

内容を精査しながら、個別に新しく提案したい項目があれば次の会議までに出して良いか。野球場の整備と利活用について具体的に示したいと思った。

■区役所長

体系的に大筋これで決める。現在の項目にぶら下げるものであれば付け加えることは可能であるが、全く別箇に加えることはできない。

○立谷委員

「真野川の土手を活用したマラソンコース」をぜひ挙げていただきたい。

■区役所長

場所と中身を規定したものが実現可能かどうかという問題になる。

ウォーキングコースが必要なのか、真野川の土手の景観を整備するのにかよって、全くアプローチが変わってくるので、それを実施計画の中で具体的に詰めていただく作業が必要かと考えている。

○澤田会長

我々市民がハイキング等、実績を作って市を動かすのも一つの方法だと思う。

○郡委員

いわばビジョンは骨組みであって、実施計画の中で具体化するものであり、今回の取り組みの中で各まちづくり委員会から挙げられた、いろいろな要望の中から適宜取り上げるというような理解で良いのではないか。

ここに書かれていないことは実施しないのではなく、今後も個別の要望をしながら実現を目指すということである。

○澤田会長

皆さんのご協力により、ここまでこぎつけたことに御礼申し上げたい。

6. その他

①次回地域協議会日程について

■事務局

次回の地域協議会を2月の後半に設定したい。

7. 閉 会

以上のとおり、相違ありません。

会 長

澤田 一夫

会議録署名人

立谷 ちず子

会議録署名人

大塚 悦子